

# 令和7年度 福生市立学校 学校経営方針

学校名 福生第五小学校

校長名 泉田 巧人

公印

## 教育目標

人権尊重の精神を基調とし、生涯を通して主体的に生き社会に貢献する人間の育成と、知、徳、体の調和のとれた豊かな人間性を持ち、他者と協力して新たな時代をたくましく生き抜く児童を育成するために、次の目標を設定する。

- ◎よく考え学習する子 (主体的に学び、課題解決に向き合う子:問題解決力)
- 優しく思いやりのある子 (相手の気持ちを考えて行動できる子:人間関係形成力)
- 健康でねばり強い子 (心と体を大切にし、目標に向かい努力できる子:実践力)

## 1 目指す特色ある学校像

コミュニティ・スクールを基盤とし、保護者、地域・関係諸機関、教職員が一体となり、一人一人を大切に安全で安心な環境をつくるため、地域と共に成長する学校を実現する。児童理解の基に資質・能力の三つの柱をバランスよく身に付け、『確かな学力、豊かな心、健やかな体』の調和のとれた児童を育成し、自己実現できる学校を目指す。

- ① 「確かな学力」
  - 教職員、児童が共に学び合い基礎・基本を習得し、もてる力を最大限に発揮できる学校
- ② 「豊かな心」
  - 教職員、児童一人一人が、人権意識をもち自分や他の人を大切にする学校
- ③ 「健やかな体」
  - 教職員、児童が共に健康で、元気のあふれる学校

## 2 学校経営の目標

### (1) 中期的目標

特別支援教育の視点に重点を置き、小・中学校の9年間を見通した指導を行い、誰一人取り残さない指導を徹底し、小学校段階における基礎的・基本的な資質・能力を育成する。

- ① 確かな学力
  - ア 年度末に行う東京ベーシックドリル診断シートで40点未満の児童が10%以下(算数)
  - イ 全教職員の指導力の向上及び特別支援教育に係る知識・技能の向上による主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
- ② 豊かな心
  - ア 人間性豊かで、他者との関わり合いを大切にする児童の育成
  - イ 人権教育の理解と道徳教育の充実及び生徒指導力の向上による安全・安心な学校の実現
- ③ 健やかな体
  - ア 体育科の授業や行事等の体育的活動の充実による児童の体力向上
  - イ 生活リズムの構築、食育、薬物乱用防止、性教育等の推進による健全育成のための指導の充実

### (2) 本年度の目標

- ① 確かな学力
  - ア 児童の各教科等の基礎的・基本的な知識及び技能を向上させる。
  - イ 教職員の各教科等の指導力及び特別支援教育の知識を向上させる。
  - ウ 一人1台のタブレット型端末を最大限に有効に活用し、主体的に学ぶアウトプット中心の学習指導の充実を図り、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な指導を推進する。
  - エ 教職員の生活指導力を向上させるとともに児童の授業規律を徹底する。
- ② 豊かな心
  - ア 道徳科を要として教育活動全体を通じた道徳教育、人権教育を推進する。
  - イ 愛鳥活動、環境学習等、様々な教育活動に地域人材を活用し、探究的、体験的で心に届く学びを実現する。
  - ウ 児童の思いやりや優しさ等の心を育成する。
- ③ 健やかな体
  - ア 児童が、望ましい生活習慣を身に付けるとともに、自身の健康について関心を高め、体力向上に向けて主体的に取り組む態度を育む。
  - イ 児童の全身持久力の向上を図る。

### 3 目標達成に向けての課題

- (1) 確かな学力
  - ア 児童の発達の段階を理解し、特別支援教育の視点を生かした各教科等、主に外国語・外国語活動のICTの活用を含めた指導力の向上
  - イ 各教科等における、基礎的・基本的な知識及び技能の定着
- (2) 豊かな心
  - ア 児童の規範意識の醸成と他者と円滑に関わるためのコミュニケーション能力の育成
  - イ いじめの未然防止や新たな不登校を生まないための、支持的風土のある居心地の良い学級づくりの実現
- (3) 健やかな体
  - ア 望まし生活習慣の定着及び給食指導や食育の充実に向けた学びの工夫・充実
  - イ 体力向上全体計画に基づく、各学年のめあてを明確にした体育的活動の充実
- (4) 学校経営に関して
  - ア 教職員の特別支援教育の知識及び技能の習得
  - イ 心に届く体験的な学びの場の充実に向けた、地域と学校の協働活動の推進

### 4 経営の具体策

- (1) 児童理解を基に変容を適切に見取り、基礎・基本を身に付けるための授業改善に取り組む。
  - ア 一部教科担任制により授業改善の教材研究の時間を確保し、質の高い授業を実現する。
  - イ 育成すべき資質・能力の三つの柱に照らした授業改善を行うため、「福生市学力・学習状況調査」等の客観的な調査を基に児童の身に付けている資質・能力を明確にして、授業改善推進プランの活用及びR-PDCAサイクルによる指導と評価の一体化等に取り組む。
  - ウ 東京ベーシックドリル診断シート等で、客観的に児童の学習の定着状況を把握し、朝学習等やミライシード、家庭学習等で繰り返しの学習を行い、定着を図る。
  - エ ふっさっ子スタンダード及びふっさ五スタンダードを指針に学習規律を徹底する。
  - オ 各教科等の指導力向上及び特別支援教育の理解のため、東京都教職員研修センター等の研修へ参加する。
  - カ 校内研究を軸として、ユニバーサルデザインの視点を生かした指導や教材・教具、教室等の教育環境の整備し、誰もが分かりやすいホスピタリティの高い授業づくりを行う。
  - キ 地域の図書館や学校図書館等を活用した読書活動及び朝読書等により読書を推進する。
  - ク 休み時間や給食の時間等にALT等を活用するなどして英語に親しませるとともに、グローバル人材の育成の基礎となる外国語・外国語活動等を充実させる。
- (2) 全教職員が生徒指導の2軸3類4層の構造を理解し、発達支持的生徒指導を重点にするとともに、人権教育を推進し、思いやりや優しさ、感謝の気持ちをもてるようにする。
  - ア 人権教育プログラムや人権擁護委員を活用した、人権の授業を全学級で実施する。家庭や地域と連携し、道徳科を要に各教科等で横断的に人権教育を行う。
  - イ 「道徳科校内研修ノート」の活用や、地域、保護者を活用した道徳教育及び地域人材を活用した、生活・総合的な学習の時間を中心とした体験活動等を充実させる。
  - ウ 学級会を軸に自治的活動を推進し、児童の自治的能力を向上させる。児童の主体的な活動、活躍できる場、発表の場等を意図的、計画的にもち、成功体験を多く経験させることで、自尊感情や自己肯定感を高めるとともに、コミュニケーション能力等を育成する。
  - エ 「スタートカリキュラム」「交流活動」を充実し、円滑な適応や居場所づくりを行う。
- (3) 各教科等や行事で育成する資質・能力を明確にし、重点化を図るとともにカリキュラム・マネジメントにより学習を効果的に実施する。
  - ア 「福生市立学校の体力向上策（第2次）」や体力テストの東京都統一体力テストデジタル集計システム「ALPHA」を活用し、組織的に体力の向上に取り組む。
  - イ 令和2年度に作成した五小ESDカレンダーを活用・実施・改善する。
  - ウ 安全教育の研究成果を生かしたカリキュラム・マネジメントによる指導を充実させる。
  - エ 生活習慣や健康を意識できるよう食育を推進するとともに、歯磨き指導の徹底を図る。
- (4) 働き方改革の一環として、研修体系等を整理し、会議を効率的に行えるようにする。
- (5) コミュニティ・スクールとして、地域・保護者の声に耳を傾け、学校改善に生かす。

### 5 年度末のチェックポイント

- ① 確かな学力ー「学びに向かう力」の伸長を図り「子どもは学習を理解できている」への保護者の回答及び「あなたは、勉強していることが分かりますか」への児童の回答の肯定的な評価が90%以上を達成できたか。
- ② 豊かな心ー児童理解への取り組みが安心感につながり、「学校は楽しい」の保護者の回答の肯定的評価が90%以上を達成できたか。
- ③ 健やかな体ー本校児童の体力調査における項目の平均が都平均に達することができたか。
- ④ 学校経営に関してーコミュニティ・スクール委員の学校評価の肯定的意見が、90%以上を達成できたか。